様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２５年６月４日現在

機関番号：１４３０１
研究種目：基盤研究（Ｂ）
研究期間：2008～2012
課題番号：２０３２０１０９
研究課題名（和文）　中国古代軍事制度の総合的研究

研究課題名（英文）　A general study on early Chinese military system

研究代表者
宮宅　潔（MIYAKE KIYOSHI）
京都大学・人文科学研究所・准教授
研究者番号：80333219

研究成果の概要（和文）：本研究はまず、(1)日本・中国・欧米における近年の軍事史研究の動向を把握し、そこに潜む問題点について共同研究者の共通認識を形成した上で、各自の研究課題に討論を加えて、(2) 中間年度に国際シンポジウムを開催した。そこでの討議をふまえてさらに議論を重ね、(3)参加者全員の寄稿を得て成果報告書『中国古代軍事制度の総合的研究』を発行するに至った。

研究成果の概要（英文）：This project started with examining research trend around Chinese military history in Japan, China, and the Western countries, sharing common idea among collaborators. On this basis, We conducted an international conference in the third year, published a booklet of the conference papers. After the discussion in this conference and other smaller workshops, the final research report of this project, *General Study on Early Chinese Military System*, was published.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００８年度	2,500,000	750,000	3,250,000
２００９年度	2,300,000	690,000	2,990,000
２０１０年度	3,500,000	1,050,000	4,550,000
２０１１年度	3,100,000	930,000	4,030,000
２０１２年度	3,300,000	990,000	4,290,000
総　計	14,700,000	4,410,000	19,110,000

研究分野：中国史
科研費の分科・細目：史学・東洋史
キーワード：軍事制度、出土史料、官制、法制、礼制

１．研究開始当初の背景

政治・社会・経済・文化・思想といった分野と比べて、中国の軍事制度に関する研究は相対的に手薄であった。武事をいやしみ、文官が武官に優越するという「原則」や、暴力に訴えない勝利を至上のものとする思想の存在は、中国の文化が本質的に非軍事的なものだったという印象を与え、「軍事」を軸にして中国史を論ずるのを、躊躇させてきたところがある。近年こうした問題点が、特に欧米の研究者によって提起されるようになった。

これに対して、わが国における中国軍事制度研究は、欧米に比べるとはるかに盛んであるようにも映る。だが、その研究は徭役・兵役制度研究に偏り、官制や礼制をはじめとした諸制度が、実は深いところで軍事制度に結びついていることが等閑視されてしまう傾向にあった。

２．研究の目的

本研究は、如上の研究状況をふまえつつ、中国古代の軍事制度を通時的・総合的見地から解明することをその目的とする。研究には二つの柱がある。

(1)新出史料の活用による古代兵制の復元

近年、漢代の最前線であり、新占領地でもあった居延・敦煌地域で木簡群が新たに発見され、軍制に関わる新史料が利用可能になっている。これら史料を集積・整理し、軍事システムを復元することが、本研究の目的の一つとなる。

(2)兵制を軸とした諸制度の分析

秦漢時代から六朝、隋唐に至るまでの、研究対象を異にする研究者によって研究組織を構成し、官制や礼制、さらには刑罰制度といった、直接軍事とは関係をもたない諸制度に分析を加え、中国古代における「軍事」の役割を解明する。さらにその延長線上には、中国の、軍事に対する根本的な認識を歴史的に把握するための、出発点が開けているものと期待される。

３．研究の方法

本研究の研究課題は、前項で挙げた(1)と(2)に分かれる。両者は依拠する史料や研究手法において相違するものの、(1)の成果は(2)の共同作業における議論の土台となり、また逆に、(2)の切り口から得られた知見が、(1)の分析を、より整合性を備えたものとしよう。新出史料を活用すること、及び兵制を含めた諸制度の通時的展開を念頭に置くことにより、従来は詳細が不明であった秦漢時代の兵制に迫ろうとするのが、本研究の目指すところである。

この点において二つの柱、すなわち(1)(2)の研究課題は互いに関連しており、それぞれが独立して進められる性格のものではない。前者の作業は主として秦漢史を専門とする宮宅・佐藤によって担当されることになるが、その成果・課題が他の共同研究者とも共有されるよう努めるものとする。

この研究作業には、金秉駿（ソウル大学）・エノ・ギーレ（ハイデルベルク大学）という２名の海外共同研究者も参加し、国際的な研究動向、とりわけ中国の「軍事」への注目度が近年とみに高まっている欧米での研究成果や方法論を積極的に取り込んでゆく。彼らとの意見交換を密にすべく、毎年討議の機会を設け、特に中間年度には、前半の総括と後半への展望のために、公開セミナーを開催する。その上で最終年度には、研究報告書『中国古代軍事制度の総合的研究』の刊行を目指す。

４．研究成果

本研究はまず、(1)日本・中国・欧米の研究動向を把握し、そこに潜む問題点について共同研究者の共通認識を形成した上で、各自の研究課題に討論を加えて、(2) 中間年度に国際シンポジウムを開催した。そこでの討議をふまえてさらに議論を重ね、(3)参加者全員の寄稿を得て、計画どおりに成果報告書『中国古代軍事制度の総合的研究』を発行するに至った。以下、この研究計画の進行に沿って、それぞれに得られた成果を紹介しておく。

(1)研究動向の把握と展望

初年度のシンポジウムでは、宮宅が日・中・欧米の研究状況を紹介すると共に、ギーレと金から、それぞれ欧米と韓国の研究状況に関する、充実した報告が寄せられた。

総じていえば、日本・韓国の兵制研究は徭役制度、あるいは官僚制度研究の一環として進められており、それが軍事に係わるものであることへの認識が希薄であり、同じ傾向は中国での研究にも認められる。その一方で、欧米の中国史研究においては、軍事制度を正面から扱ったものが多く、たとえば戦争や暴力の存在形態を手がかりにして、社会構造や王権が持つ性格の変化を解き明かす、いわば軍事を一つの軸として政治制度や社会構造を分析した業績が挙げられている。

こうした相違を互いに踏まえつつ、①皇帝権力、ないしは中央政府の政権構造の中に潜む軍事的性格をより意識する必要性、及び②軍事を負担する者に対して与えられる社会的地位の、通時代的変化を模索する必要性が共通認識として得られた。

(2)国際シンポジウム「中国古代軍事制度研究の課題と展望」

国外の共同研究者をすべて招へいし、国内の秦漢・隋唐史研究者の参加も広く募った上で、国際シンポジウムを開催した。発表題目は以下の通り。

- 「中国古代軍事史研究の現状」（宮宅潔）
- 「帝政中国の軍事に関する二、三の問題-最近の欧米での研究によせて-」（エノ・ギーレ(米国・アリゾナ大学)）
- 「秦漢時代の時と戦争」（金秉駿(韓国・翰林大学)）
- 「中国古代軍功制度研究への展望」（佐川英治）
- 「出征儀礼と戦争」（丸橋充拓）

前半２本の発表は、初年度に行った研究動向の検討をふまえたもので、それぞれに範囲をひろげたり、ポイントを絞ったものが発表された。後半の３本は共同研究者がそれぞれの研究課題について論じたものである。戦役史の研究方法について新たな提案を行った

金発表、爵制を「軍功報奨制度」としての側面から分析した佐川発表、軍事行動における儀礼の役割を論じた丸橋発表など、いずれも興味深いものであり、多くの参加者から貴重な意見が寄せられた。

会議終了後、発表レジュメに修正を加え、あるいは内容を翻訳・文章化したうえで報告書を作成し、関連分野の研究者に広く配布した。

(3)『中国古代軍事制度の総合的研究』の発行

すべての共同研究者から、１～２本の寄稿を得て、本研究の最終成果として標記の報告書を発行し、関係する国内外の研究者、及び図書館・研究期間に広く配布した。その内容は以下のとおり。

- 「中国古代軍事史研究の現状」（宮宅潔）
- 「中国古代の戦争史・軍事史に関する欧米での研究」（エノ・ギーレ）
- 「韓国における中国軍事史研究（秦漢～南北朝時代）の概観」（金秉駿）
- 「中国古代の戦車に関わる諸資料と研究をめぐって」（エノ・ギーレ）
- 「秦の戦役史と遠征軍の構成－昭襄王期から秦王政までー」（宮宅潔）
- 「漢－古朝鮮戦争の復元－『史記』朝鮮列伝再読－」（金秉駿）
- 「漢代に於ける儀礼と軍事－儀仗兵の存在とその性格を中心にー」（佐藤達郎）
- 「中国中古軍功制度初探」（佐川英治）
- 「南朝における外号将軍の再検討」（藤井律之）
- 「唐代射礼の源流」（丸橋充拓）

３本の研究動向は、初年度と第３年度に行った研究会・国際シンポジウムでの発表を基にしたもので、日・中・韓、さらに欧米での最新成果を盛り込んである。近年、欧米では中国軍事史研究の不足や偏りが強く意識され、研究史の回顧や新しい研究手法の提唱がなされているものの、こうした動きは東アジアの研究者にはあまり認知されていない。ここでの網羅的な紹介は、日本における今後の中国軍事史研究にも影響を及ぼすものである。

７本の論文は、①戦役史（宮宅・金）、②「軍事」に軸を据えた制度史の分析（佐川・藤井）、③軍事と儀礼の関係（佐藤・丸橋）、および④戦争技術（ギーレ）に分類される。戦役史の分析から「農民兵から構成された秦軍」というイメージに疑義を呈し、秦による軍事統一の原因に再考を迫る宮宅論文や、儀礼遂行の背景に象徴的・実質的武力が存在することを詳細に指摘する佐藤論文など、いずれも軍事史研究の新たな試みと呼ぶべきものと自負される。

最後に、個人の研究業績にかかるものではあるが、近年の制度史研究のなかで宮宅が挙げた成果が高く評価され、2011 年度の日本学術振興会賞を受賞したことを附言しておく。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１９件）

①宮宅潔、中国古代軍事史研究の現状、科研費報告書『中国古代軍事制度の総合的研究』、1～14 頁、2013、査読無

②宮宅潔、秦の戦役史と遠征軍の構成－昭襄王期から秦王政までー、科研費報告書『中国古代軍事制度の総合的研究』、41～64 頁、2013、査読無

③佐藤達郎、漢代に於ける儀礼と軍事－儀仗兵の存在とその性格を中心にー、科研費報告書『中国古代軍事制度の総合的研究』、81～96 頁、2013、査読無

④佐川英治、中国中古軍功制度初探、科研費報告書『中国古代軍事制度の総合的研究』、97～110 頁、2013、査読無

⑤藤井律之、南朝における外号将軍の再検討、科研費報告書『中国古代軍事制度の総合的研究』、111～144 頁、2013、査読無

⑥丸橋充拓、唐代射礼の源流、科研費報告書『中国古代軍事制度の総合的研究』、145～153 頁、2013、査読無

⑦佐藤達郎、後漢末の弓矢乱射事件と応劭の刑罰議論、関西学院史学 40、1-15、2013、査読無

⑧宮宅潔、漢代官僚組織の最下層－「官」と「民」のはざま、東方学報京都 87、1-52、2012、査読有

⑨藤井律之、和製類書所引『説苑』小考、敦煌写本研究年報 6、117-153 頁、2012、査読有

⑩丸橋充拓、魏晋南北朝隋唐時代における「軍礼」確立過程の概観、社会文化論集（島根大学法文学部紀要・社会文化学科編）7、53-61 頁、2011、査読無

⑪佐川英治・阿部幸信・安部聡一郎・戸川貴行、日本魏晋南北朝史研究的新動向、中国中古史研究：中国中古史青年学者聯宜会会刊 1、3-29 頁、2011、査読無

⑫佐川英治、中国古代の都城の空間、文化交流研究 24、45-59 頁、2011、査読無

⑬佐藤達郎、摯虞『決疑要注』をめぐって、関西学院史学 38、63-82 頁、2011、査読無

⑭佐川英治、游牧与農耕之間―北魏平城鹿苑的機能及其変遷―、中国中古史研究 2、102-136 頁、2011、査読有

⑮宮宅潔、中国古代軍事制度研究の試み、中国出土資料学会会報 48、5～7 頁、2011、査読無

⑯宮宅潔、秦漢時代の恩赦と労役刑―特に「復作」をめぐって―、東方学報京都 85、45-75 頁、2010、査読有
⑰佐藤達郎、漢六朝期の地方的教令について、東洋史研究 68-4、1-26 頁、2010、査読有
⑱丸橋充拓、府兵制下の「軍事財政」、唐代史研究 13、56-70 頁、2010、査読無
⑲藤井律之、西陲発現淮南子時則訓小考、敦煌写本研究年報 3、133-145 頁、2009、査読無

〔学会発表〕（計６件）
①宮宅潔、秦代軍事制度の諸問題、東洋史研究会、2012 年 11 月 3 日、京都大学
②佐川英治、中国中古軍功制度初探、唐長孺先生百年誕辰紀年国際学術研討会暨中国唐史学会第十一届年会、2011 年 7 月 4 日、中国・武漢大学
③佐川英治、漢六朝時代的郊祀与城市規画、中古時代的礼儀、宗教与制度国際学術検討会、2010 年 11 月 7 日、中国、復旦大学
④丸橋充拓、唐開元軍事儀礼の源流、東洋史研究会、2010 年 11 月 3 日、京都大学
⑤佐川英治、都城与円丘―北魏宣武帝景明二年円丘設置的歴史意義―、第三届中国中古史青年学者聯誼会、2009 年 8 月 29 日、中国・武漢大学
⑥佐藤達郎、漢代の扁書・壁書―特に地方的教令との関係で―、中国古中世史学会、2008 年 5 月 23 日、韓国・忠北大学

〔図書〕（計５件）
①宮宅潔（編著）、中国古代軍事制度の総合的研究、2013、153 頁
②藤井律之、魏晋南朝の遷官制度、京都大学学術出版会、2013、280 頁
③宮宅潔（編著）、国際シンポジウム「中国古代軍事制度研究の課題と展望」報告書、2011、77 頁
④宮宅潔、中国古代刑制史の研究、京都大学学術出版会、2011、411 頁
⑤冨谷至・宮宅潔・井波陵一・藤井律之（共著）、三国鼎立から統一へ　史書と碑文をあわせ読む、研文出版、2008、162 頁

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
宮宅　潔（MIYAKE KIYOSHI）
京都大学・人文科学研究所・准教授
研究者番号：８０３３３２１９

(2)研究分担者
佐川　英治（SAGAWA EIJI）
東京大学・人文社会系研究科・准教授
研究者番号：００３４３２８６
佐藤　達郎（SATO TATSURO）
関西学院大学・文学部・教授
研究者番号：３０３４０６２３
丸橋　充拓（MARUHASHI MITSUHITO）
島根大学・法文学部・准教授
研究者番号：１０３２５０２９
（H21→H22：連携研究者）

(3)連携研究者
藤井律之（FUJII NORIYUKI）
京都大学・人文科学研究所・助教
研究者番号：５０３３５２３８